

令和5年度須坂市立森上小学校との連携授業まとめ

- 1 目的 小学生との異年齢交流授業を通して、高校が普段の授業で学んだことを児童に伝えることをとおし、農作物を育てること、食すこと、協働して取り組むことの必要性等についての理解を一層深めるとともに、教える立場に立つことで学ぶことの楽しさを実感する。さらには、小学生の食農教育に寄与することを目的とする。
- 2 交流場所 長野県須坂創成高等学校
- 3 実施回数 令和5年5月～令和5年12月までの間に14回
- 4 対象児童 須坂市立森上小学校4年生 38人
- 5 実施科目 学科連携科目：地域創成（受講者数（農19人、工0人、商21人）
- 6 授業担当 教諭 原山 直也（商業科） 柳澤 亘（農業科）
- 7 交流内容

○小学生との顔合わせとアイスブレイキング（1回）

本校の校内圃場南側に隣接する森上小学校の4年生と、本校の野菜圃場にて農作物を栽培し、10月に実施する「創成フェア」で生産物を販売することを目標に、交流授業を進めた。

最初に顔合わせの会を森上小学校の体育館で行い、両者ともに6班に分かれて班ごとに自己紹介をし、その後に全員でバースデーリング（誕生日当てゲーム）を行った。このゲームをしたことで小学生と高校生の距離が一気に縮まった。

○季節の作物調べと栽培する作物の選定（3回）

小学生と高校生とで季節ごとの野菜を調べ、サツマイモ、カボチャ、トウモロコシ、ジャガイモを育てることに決定した。

○作物の栽培（5回）

小学生と一緒に畑を耕し、マルチを敷き、苗を植えた。作物を収穫するまでは、小学生と交代で灌水や除草を行った。しかし、夏場の猛暑や少雨の影響で、思うように作物が育たなかった。トウモロコシ、ジャガイモは十分な収穫物が得られなかった。しかし、サツマイモとカボチャはなんとか収穫することができ、サツマイモは創成フェアで販売を行った。

○創成フェアに向けての準備と販売実習（4回）

小学生と一緒にサツマイモをどのように販売するか考えた結果、焼き芋にして販売するということになった。また、焼き芋だけでは売り場が寂しくなるため、焼き芋に加えて射的と綿あめの販売も同時に行うことにした。

創成フェアは10月28日、29日の2日間開催したが、開催するまでの間に一緒にポスターや飾りなどを作成し、当日の販売に備えた。

フェア期間中の2日間とも小学生が本校を訪れ、一緒に販売を行った。小学生はとても元気な声で「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」などの接客をし、高校生も負けなように大きな声で接客しており、その姿から交流をとおして高校生が小学生から多くのことを学んでいると実感した。

なお、焼き芋は早くに完売し、射的や綿あめも大盛況であった。

○振り返りとプレゼン発表（2回）

創成フェアが終了後に、最後の交流授業としての振り返りを行った。高校生から小学生にメッセージカードを渡し、最後に写真を撮って連携授業を終わりにした。

高校生は1月の課題研究発表会で連携授業の実践報告を行ったが、その際に小学生からビデオメッセージが届き、小学生が感謝の言葉を一生懸命伝えてくれている姿に高校生は感激していた。小学校と高校の連携授業は、今年度から始まったため、試行錯誤を繰り返しながら交流を重ねてきたが、両者ともに学ぶことがたくさんあり、とても探究的で深い学びになった。この取り組みは今後も継続していくため、今年度の反省を生かして来年度はさらに良い連携授業が実施できるようにしていきたい。

8 交流の様子



アイスブレイキングの様子



季節の作物調べの様子



マルチ敷きと定植の様子



マルチ敷きと定植の様子



収穫の様子



収穫の様子



販売準備の様子



創成フェアの様子

9 交流活動の成果（感想）と課題

本交流において、高校生の学びとして最初に挙げられるのは、活動をとおして一人ひとりが責任と自覚をもって主体的に授業に取り組んだことである。両者ともに6人ずつの6人ずつのグループで活動したため、小学生1人の高校生1人がついて交流を重ねた。また、交流授業では教員が授業を進めることはなく、高校生が授業の進行等担当し、説明も高校生が小学生に分かりやすく教えるなど、常に高校生は積極的に授業に参加し、主体性に学びを深めていた。また、異年齢交流をとおして相手の気持ちに立って考えることなど協調性も磨いていた。

小学生からの感想としては、「高校生は困っている人や悩んでいる人に声をかけて手伝っていかっいいと思いました」「初めて会った時から恥ずかしそうにしている人にも積極的に声をかけていて、私もこういうお姉さんになりたいと思いました」「創成フェアでは、最初緊張して“いらっしゃいませ”の声が小さかったけど、高校生が元気よく“いらっしゃいませ”と言ってお手本を見せてくれたので私も安心して大きな声で接客できました。その時は自分の成長を感じることができました」など、の成長を感じられる多くの感想を頂戴した。

このように、両者にとって本交流をとおしてお互いが成長を感じることでできた、大きな有意義な授業とすることができた。

一方で課題としては、作物を育てることの大変さ・難しさがある。今年度に栽培した作物は苗植えの時期が少し遅れてしまったことと猛暑であったため、植え付けをした苗の半分以上が枯れたり生育不良によって結実しなかった。このことから、作物の栽培計画が甘かったと痛感している。これを踏まえ、来年度は早めの苗植えをし、灌水や除草を徹底し、作物を確実に収穫できるように栽培していきたい。また、来年度は今年度以上に農作物に関する知識や販売に関する知識を学習する時間を増やし、より良い連携授業が実施できるようにしていきたい。